

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042・464・8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp  
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042・461・1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042・461・9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042・421・3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042・424・3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042・421・1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



メッセージを記入する来場者

谷戸まつりの準備が大詰めを迎えていた昨年3月。突然の震災により、まつりの中止が決定しました。しかし、「地域で何か支援できないか」「谷戸まつりで何かできるはず」との意見が公民館利用団体や地域から多く寄せられ、予定の2週間前に、緊急災害復興支援として改めて開催することが決まりました。開催できることで、被災地へつながる思いを強く感じ、限られた時間の中で実行委員会も地域も熱く動いたのです。

## 地域が動いた！

谷戸まつり実行委員長

玉木 誠

市民の手によって、さまざまな被災地支援の取り組みが、公民館を拠点に展開されました。今回は、その取り組みの一端を紹介します。被災地復興の一助となる活動が、今後も継続していくことを願っています。

# 被災地を忘れない…

## 私たちはこんな支援をしています

実現したバザーも大盛況で、まつり実行委員会の出店売り上げの一部と合わせ、予想以上の金額を東京都共同募金会・あしなが育英会に寄付することができました。さらに、多くの来場者からいただいた被災地へのメッセージも、育英会を通じて現地へ届けました。

参加者の方から、「一人では動けないが、まつりを通じて被災地に協力できたことに感謝したい」との声をいただき、開催して良かったと改めて感じました。そして、大きなイベントでなくとも、小さくても顔が見える地域のまつりが、人とのつながりを深め、地域を動かす力になることも再確認できました。

そこで皆さん、今年も復興支援として第24回谷戸まつりを今月21・22日に開催します。谷戸まつりは、公民館利用者だけでなく地域住民も協力・参加するまつりです。地域が元気に動いていることを実感してください。お待ちしております。

## 公民館まつりで復興支援

芝久保公民館まつり実行委員長

池田千城

今回の芝久保公民館まつり実行委員会では、開催に当たって、

例年と同じことをしていいのかわか迷いました。そして、ここ数年継続しているテーマ「出会い、ふれあい、広がる絆」に「今できること」を加えました。この気持ちを形にする方法として、「支援バザー」をすることと「体験コーナー」でチャリティ募金をすることとし、それに体験コーナーで折った折り紙を添えて被災地に届けることにしました。

各サークルから集まった250点ほどの品物が全部売れて、目標の倍の支援金が集まりました。まつりに来場された皆さんも思いを共有していただけたように思います。

西東京市の職員が支援に行っているところに届けたいと考えて、公民館に紹介をお願いし、福島県の新地町の駒ヶ嶺公民館を通じて、被災された方に届けることができました。テーマに「今できること」を加えることによって、このような形で支援の絆を広げることができて本当に良かったと思います。

## 福島県新地町へ

芝久保公民館まつり副実行委員長

須磨田純子

2月24、25日に被災地福島県



福島県新地町の公民館ロビー

新地町「復興・生涯学習フェスティバル2012」に、芝久保公民館まつり実行委員会として参加してきました。昨年11月の芝久保公民館まつりでの復興支援バザーの支援金で購入した西東京かりんとう、ガトーシヨクラ、コーヒーメーカーなどが活躍しました。町民の方々に芝久保公民館ロビーコーナー講師の作品の大豆びなやしおりのプレゼントをするなど、お互いが楽しく時を過ごし、「絆」を強めました。豊かな風土に包まれた新地町の復興のために「つながり」を大切に助け合っています。いと実感した旅でした。

## 手作りのハンドクリーム

平成23年秋に実施したひばりが丘公民館「カラダと環境にやさしい暮らしの講座」では、肌によさしいハンドクリームを手作りしました。天然の成分だけを使って、講座参加者が2つずつ作り、1つは東日本大震災の被災地に送りました。良い香りのするクリームが、少しでも被災地の人々を癒してくれるようにと願いをこめて。

## サークル訪問

## 「シフォンクラブ」

5台の最新型オーブンが設置された田無公民館の実習室で、「シフォンクラブ」の皆さんが、黙々とケーキ作りに取り組みしていました。部屋中に、甘い香りが立ち込めています。

同会の発足は2年前。代表の松岡さんが、創作シフォンケーキのレシピ本を出している中山真由美さんの元で指導を受けた後に、お母さん仲間を誘ってサークルを立ち上げました。その後、お母さんたちに口コミで広がって、今では新規メンバーも加えて20人の大所帯になりました。

今日作ったのは、上級者6人によるマーブルチョコシフォンケーキ。試食させていただきましたが、ふわふわでしっとり、とろけるような仕上がりで、まさに絹（シフォン）のようにやさしい口当たりでした。

特筆すべきは、シフォンケーキはバターを使わないので、ヘルシーで、安価にできるとのこと。お財布にもやさしく、太る心配が他のケーキに比べて少ないなんて、まるで夢のようなケーキです。しかも、計量から



作りたてで笑顔のひととき



できたてのシフォンケーキ

焼きあがって冷ます時間を入れても2時間でもできる手軽さです。シフォンケーキ作りの魅力はそれだけではありません。会員の中村さんは、「いろいろな味にアレンジできるから飽きないんですよ」と話してくれました。また、「売っているものより作ったほうが断然おいしい」と語る山ノ内さんは、「ここでは情報交換をしたり、互いに出来栄を見比べて励まされたりできるのが魅力です。家で一人で作るより楽しいです」と、みんなで作る楽しさを教えてくれました。

同会は、シフォンケーキのおいしさを皆さんに伝えたいという思いから、「田無公民館まつり」や武蔵野市の「あつたかまつり」に参加して、手作りシフォンケーキを販売しています。

昨年の田無公民館まつりでは、8種類のシフォンケーキを合わせて40ホール焼いて販売し、収益金の一部を震災の義援金として被災地に送付しました。前日の朝から夕方まで、田無公民館の実習室で、ずっとケーキ作り続けたのは大変でしたが、いつも以上に手順に気を配って作ったので、勉強になったとか。今年の田無公民館まつりでの販売は、現在検討中です。

現在、会員募集はしていませんが、イベントが有り必要なきは、お声をかけてください。